

--	--	--	--	--	--	--	--

1 次の各問に答えなさい (詳細な説明は不要, 問に答えるのみでよい). (各 4 点)

- (1) 以下の式はある行列の行列式を第 2 行で余因子展開したものである. (ア) に当てはまる行列 および (イ) に当てはまる符号 (+ または -) を答えなさい.

$$\det \begin{pmatrix} -3 & 2 & -3 & 5 \\ 1 & 0 & 0 & 2 \\ -1 & 1 & -1 & 2 \\ 2 & 1 & 0 & 3 \end{pmatrix} = -\det \left(\begin{array}{|c|} \hline \text{(ア)} \\ \hline \end{array} \right) \text{(イ)} 2 \times \det \begin{pmatrix} -3 & 2 & -3 \\ -1 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

(ア)

(イ)

- (2) 連立方程式

$$\begin{cases} 2x + 3y + z = 1 \\ -3x + 2y + 2z = -1 \\ 5x + y - 3z = -2 \end{cases}$$

の解をクラメールの公式を用いて表すと

$$x = \frac{\det \begin{pmatrix} 1 & 3 & 1 \\ -1 & 2 & 2 \\ -2 & 1 & -3 \end{pmatrix}}{\text{(工)}}, \quad y = \frac{\det \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ -3 & -1 & 2 \\ 5 & -2 & -3 \end{pmatrix}}{\text{(工)}}, \quad z = \frac{\det \left(\begin{array}{|c|} \hline \text{(ウ)} \\ \hline \end{array} \right)}{\text{(工)}}$$

となる. (ウ) に当てはまる行列 および (工) に当てはまる実数 (値) を答えなさい.

(ウ)

(工)

- (3) 置換 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 4 & 2 & 1 \end{pmatrix}$, $\tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 2 & 1 & 4 \end{pmatrix}$ に対し, σ の逆置換 σ^{-1} と τ との積 $\sigma^{-1} \circ \tau$ は

$$\sigma^{-1} \circ \tau = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ \text{(オ)} \end{pmatrix}$$

となる.. (オ) に当てはまる数の列 を答えなさい.

(オ)

--	--	--	--	--	--	--	--

2 行列 $\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 4 \end{pmatrix}$ が正則行列かどうか判定しなさい。(4 点)

3 次の行列の行列式を求めなさい。(6 点)

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & -3 \\ 2 & -1 & 1 & 2 \\ -1 & 1 & 2 & -1 \\ -2 & 3 & 1 & -4 \end{pmatrix}$$

$\det(A)$

--	--	--	--	--	--	--	--

4 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & -3 & 0 \\ 1 & 0 & -3 \\ 0 & -1 & 4 \end{pmatrix}$ の 余因子行列 \tilde{A} および 逆行列 A^{-1} を求めなさい (どのような方法で求めてもよい).

(各 5 点)

\tilde{A}

A^{-1}

注意事項

- 問題・答案用紙は全部で 3枚 です (これは裏です)。すべての用紙の表に学籍番号と名前を記入すること。
- 解答は各問題用紙の表の余白 (問題文の下) に書くこと。なお解答だけでなく、解を導き出す過程をできるだけ丁寧に記述すること。説明が不十分な解答や字が粗暴なものは加点しない。
- 裏は計算用紙として使用してよい (採点の際、裏は見ません)。
- 試験時間は 13:30~14:25 までとする。途中退席は認めない。 見直しや検算を十分すること。
- 試験時間中は自身の答案の作成に集中すること。不正行為と間違われるような行為を行った者 は退席させ、即刻事務に通告する。